

2020 年度（令和 2 年度）

本報告書は、学校法人巨樹の会 福岡看護専門学校第2科の専修学校における学校評価ガイドラインに基づき学校関係者評価委員会の評価結果を記したものである。

学校関係者評価 報告書

2021 年 6 月 25 日

学校法人巨樹の会
福岡看護専門学校第2科

学 校 長 松原 孝俊
副学 校 長 淀川 めぐみ(学校評価実施責任者)
第2科教務部長 萩尾 奈津子

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況
 - 1) 学校関係者評価の目的、方針
 - 2) 学校関係者評価委員
 - 3) 学校関係者評価委員会の開催
 - 4) 学校関係者評価の実施

2. 学校関係者評価の内容
 - 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 - 項目Ⅱ 学校運営
 - 項目Ⅲ 教育活動
 - 項目Ⅳ 学修成果
 - 項目Ⅴ 学生支援
 - 項目Ⅵ 教育環境
 - 項目Ⅶ 学生募集
 - 項目Ⅷ 財務
 - 項目Ⅷ 法令等の遵守
 - 項目Ⅸ 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、及び本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員

評価日 令和3年3月24日現在

委員氏名	所属	選出区分
西村 由紀子	元純真学園大学 保健医療学部 看護学科長 教授	専門家等評価委員
早川 明美	福岡和白病院看護部長	企業等委員
荒木 礼子	福岡県立須恵高等学校 校長	高校等評価委員
後藤 歩	福岡県済生会二日市病院 看護師	卒業生委員
松岡 美紀	福岡和白病院 看護主任	保護者・地域委員

※敬称略、順不同

3) 学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会 日 時:令和2年10月8日(木) 15:00～17:00

場 所:福岡看護専門学校 会議室(6階)

第2回委員会 日 時:令和3年3月24日(水) 15:00～17:00

場 所:福岡看護専門学校 会議室(6階)

4) 学校関係者評価の実施

令和2年度の自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果及び内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言

2. 学校関係者評価の内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

【評定基準】

- S : 達成度がきわめて高い (達成度が高い)
 A : ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B : 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
 C : 達成が不十分である (不適合がある、明らかに改善を要する)

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

学校の教育理念に沿った教育目的・目標はホームページ、学校パンフレットで公表している。学生には学生便覧に教育理念、目的、目標を明示しており、各学年の開始時や臨地実習のオリエンテーションで意識できるよう説明している。実習施設には、実習要項を用いて実習目標と実習内容を説明している。また、実習指導者会議等で教育理念を踏まえた学習修得の依頼をしている。

今年度は COVID-19 感染拡大により実習形態や実習内容の変更が多くあり、実習施設には変更内容を説明して協力を得た。保護者に関しても休校の措置をとる際は説明文書を郵送して了解を得た。

学生に求められている実践力、コミュニケーション力、アセスメント力を育てるために、基礎看護学の講義では演習を取り入れ、シミュレーターや事例を用いて学生の理解が深まるよう努めた。

卒業時満足度調査では、「教育理念に沿った教育を受けられた」は 91%の学生がそう思う、「教育方針や校風に共感することができ満足している」のは 94%の学生がそう思う、「専門的な知識が身につく授業であり満足している」は 96%の学生がそう思う、「専門的な技術が身につく授業であり満足している」は 87%の学生がそう思うという結果であった。

課題及び今後の改善方策

卒業時の看護技術到達度の低い項目について、学内または臨地実習で経験できるようにする。

学校関係者評価委員会からの意見

卒業時の看護技術到達度は比較的水準よりレベルが高いが、低い項目もみられる。低い項目については改善が可能か、臨地実習または学内で経験できるか検討して、具体的に取り組むとよい。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し、周知している。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し、周知している。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学生に求められている実践力、コミュニケーション力、アセスメント力を育てるために、

シミュレーターや事例を用いて演習を取り入れている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

学校法人巨樹の会の事業目標・学校の事業方針をもとに管理目標を設定している。管理目標は各科で具体的な目標を立てて取り組んでいる。また管理目標は教員のキャリア別達成目標に繋げており、各自重点目標を立てて取り組み、自己評価をして目標達成に繋げることができている。

教職員の組織図、会議、委員会の設置がされており、各委員は年度初めに目標と活動内容を設定して取り組み年度末に評価している。全ての委員会が目標達成できており、年度末に活動報告を合同教員会議で報告している。

課題及び今後の改善方策

継続して、管理目標の設定と評価を行い学校運営に取り組む。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 教職員の組織図、会議、委員会の設置がされており、委員会の運営は規定通りに実施されている。また、議事録を作成して周知されている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 諸規程は各科で保管しており、閲覧できるようになっている。規則の変更がある場合は教職員に通告があり周知されている。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学事システムや共有フォルダを使用し、学年運営に活用しており業務の効率化を図ることができている。学事システムの成績管理は、セキュリティ管理が行われている。

項目Ⅲ 教育活動

総括

学生便覧に教育課程、カリキュラムを明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、カリキュラムと授業計画を説明している。

臨地実習では実習指導者と連携してタイムリーな指導を依頼している。学生の援助後はリフレクションを行い、学びや課題明確になるよう働きかけている。今年度は COVID-19 の感染拡大により一部代替実習となり、各領域で学ぶべき内容を整理して必要な学習を組み立てた。また各領域の特性をイメージできるように視覚教材を用いた。評価は実習方法の変更内容に応じてルーブリックを修正して実習目標が達成できるよう努めた。

国家試験合格に向けて年間計画を立てて取り組んだが、今年度は COVID-19 の感染拡大により、日程や方法を変更することもあった。しかし計画内容はほぼ実施することができた。

授業評価については、外部講師は終講時に許可を得て学生からの評価をとり、結果を講師へ返している。内部教員も終講時に学生にアンケート調査を実施し、評価を受けて教育活動の達成度の把握と課題を明確にしている。授業評価の結果は一定期間教室に掲示して学生に公表し、フィードバックをしている。

卒業時満足度調査では、「実習での教育・指導体制に満足している」は 85%の学生がそう思うという結果であった。また「国家試験対策、学習支援に満足している」は 96%の学生がそう思うという結果であった。

課題及び今後の改善方策

継続して、キャリア教育・実践的な職業教育が実施できるよう教育方法の工夫を行う。

学校関係者評価委員会からの意見

コロナ禍でカリキュラムは計画通りに進行できたか評価する必要がある。またどの程度代替実習やオンライン授業に変更したのか数字を出して評価するとよい。

小項目 Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：学生便覧に教育課程、カリキュラムを明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、カリキュラムと授業計画を説明している。次年度より内部教員はシラバスに授業毎の授業内容を掲載予定。

小項目 Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：専門性の高い看護技術に関しては、演習を交えた講義を行っている。臨地実習においては、実習要項に指導要項を明記しており、教育方法の共有を図っている。

小項目 Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：授業評価をもとに、次年度に向けて改善できるよう取り組んでいる。授業評価結果は一定期間教室に掲示して学生にフィードバックしている。

小項目 Ⅲ-4

資格取得の指導體制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：国家試験合格に向けて、年間計画を立てて取り組んでいる。

小項目 Ⅲ-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：研修参加の費用負担が学校規程で定められているが、今年度は COVID-19 の感染拡大により十分な研修参加はできなかった。しかしオンライン研修で代替実習の研修を受けた教員は、代替実習に取り入れることができた。

項目Ⅳ 学修成果

総括

就職支援の窓口を明確にして、定期的に個人面談を実施して相談・支援を行った。しかし今年度は COVID-19 の感染拡大により就職説明会やインターンシップの開催が少なく就職先に迷う学生が多かった。また数名の学生が採用試験で不採用となり、複数の施設を受験することとなり支援を行った。関連病院への就職率は 31%で関連施設のニーズは満たしている。卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は 73%の学生がそう思うという結果で、昨年に比べると 17%低下していた。就職先が中々決まらなかった学生には支援を行ったが不安もあり評価に繋がったのではないかと考える。

国家試験合格に向けて成績把握を行い、必要に応じて個別学習を実施した。今年度は COVID-19 の感染拡大により学習方法を変更するなどしたが、全員が受験に臨むことができた。卒業時満足度調査では「国家試験への対策、学習支援に満足している」は 96%がそう思うという結果で、国家試験の合格率は 100%であった。

各学年年度初めに個人面談を実施し、学生の状況把握を行っている。学生の状況により、相談にのるようしており、保護者との連携も図るなどして、退学率の低減に努めている。今年度の3年生

は3年間で5名が退学した。退学理由は様々であるが、COVID-19の感染拡大が影響していた学生もいた。今後も個別の対応とサポートをおこなっていく。

課題及び今後の改善方策

国家試験問題で正答率が低い内容を洗い出して国家試験対策に繋げる。

全員の進路が決定するよう学生の希望する進路に向けて支援する。

学校関係者評価委員会からの意見

国家試験対策について学生の満足度が高いのは素晴らしい。国家試験の問題で正答率が低かった内容があれば今後の教育に繋がれると思う。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は73%の学生がそう思うという結果で、昨年に比べると17%低下していた。学生個々の状況に合わせた支援に努める。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 卒業時満足度調査では「国家試験への対策、学習支援に満足している」は96%がそう思うという結果で、国家試験の合格率は100%であった。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 今年度の3年生は3年間で5名退学している。退学理由は様々であるが、COVID-19の感染拡大が影響していた学生もいた。今後も個別の対応とサポートを行っていく。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: B ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学生の社会的な活動については、卒業生の把握が不足しているため、次年度、卒業1年目の方を対象にアンケート調査の実施を検討している。

項目 V 学生支援

総括

学生相談については、クラス担任が主で行うが、複数担当制をとっており、複数の教員で対応し

ている。学生には相談等がある際はいつでも教務室へ来て構わないことを説明しており、教員は学生が相談しやすい雰囲気心掛けています。スクールカウンセラーを2名(非常勤)配置しており、カウンセリングが必要と考えた学生については、学生に合ったカウンセラーを勧めている。

保護者との連携が必要な学生に関しては、学生に了解を得て保護者に連絡を取り、学生支援を行なっている。また、前期・後期で、学生の成績表を保護者に郵送しており、成績表と共に学生の学校生活状況の報告を行っている。

その他、奨学金窓口や学費相談の事務担当を設けており、学生の相談に乗るようしている。また、殆どの学生が就業しながら学校に通っているため、状況に応じて車通学を許可している。卒業時満足度調査では「教職員の学生への対応に満足している」は96%の学生がそう思うという結果であった。

課題及び今後の改善方策

継続して、修学支援が必要な学生に対しては、個別の相談にのり必要な支援を行う。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 進路については面談と定期的な調査で把握し、進路に悩んでいる学生に関しては、個別の相談にのるようにしている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 卒業時満足度調査では「教職員の学生への対応に満足している」は96%の学生がそう思うという結果であった。

今年度スクールカウンセリングは2~3名の学生が利用していた。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 保護者との連携が必要と考えた学生に関しては、早期に保護者と連絡をとるよう努めた。保護者と関わることで、学生の悩みの本質が理解できることもあり、修学支援に繋がったと考える。

前期・後期に学生の成績表を保護者に発送しており、その際に学生の状況を伝える文書を添えている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：次年度は入学停止のため学校訪問は実施していない。在校生の状況で必要があれば、卒業した准看護師養成学校の先生と情報交換をしている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：S ■学校関係者評価：適正

■コメント：奨学金や学費相談担当の事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。校納金の支払いについて、必要な学生には相談にのっている。奨学金は全体の半数程度の学生が利用している。専門実践教育訓練給付金制度の指定を受けており、3学年で3割程度の学生が対象となっている。学生の殆どが就業しているため、通学の相談にのり、必要な学生には車通学を許可している。

項目VI 教育環境

総括

今年度学内のWi-Fiのアクセスポイントが追加され、Wi-Fi環境がさらに整った。また各教室や会議室に電話が設置され利便性が上がった。

連絡ツールを用いて学生への緊急連絡などをとることができた。学校危機管理マニュアルの見直しを行い問題発生時の備えられるようにした。

課題及び今後の改善方策

作成した学校危機管理マニュアルの周知を行う。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：卒業時の満足度調査で「パソコン・インターネット等の情報整備や利用環境に満足している」は85%の学生がそう思うという結果であった。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：実習の意義、位置づけは実習要項に記載しており、実習施設には実習要項を用いて説明を行っている。内容の周知は、実習指導者会議を開催して説明している。変更等が必要な場合は、実習施設に説明して了解を得ている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：A ■学校関係者評価：適正

■コメント：災害時の行動は、学生便覧に記載し、毎年9月に防災訓練を実施し、学生・教職員の防災意識と知識の定着を図っている。昨年作成した学校危機管理マニュアルの見直しを行い問題発生時に役立てられるようにした。

項目VII 学生募集

総括

次年度は入学停止のため学生募集活動は実施していない。

課題及び今後の改善方策

特になし

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価： ■学校関係者評価：

■コメント：特になし

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価： ■学校関係者評価：

■コメント：特になし

項目VIII 財務

総括

中長期的な計画が示され、示された収支から安定していると考える。

教育事業の方針を基に、各科から希望を出して予算が立てられており、各科の希望を取り入れてもらっている。予算と決算については管理部門で確認がなされている。

監査は定期的に受けており収支は問題ない。

課題及び今後の改善方策

適正な収支計画による学校運営の継続を行う。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 中長期的な計画が示され、示された収支から安定していると考える。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 予算は事業計画と本校の方針に従い、各科からも希望を出している。学校の予算は本部で集約され、本校の予算が立案されている。決算の管理は管理部門で確認されており、会計監査も受けている。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント

財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。

ハラスメント防止策として、ハラスメント防止規程が示されている。学校法人のハラスメント委員は掲示されており教職員に周知されている。今年度もハラスメントに関するアンケート調査が実施され、昨年のアンケート結果の開示も行われた。

個人情報に関しては、学校で作成しているガイドラインに基づき取り組んでいる。ガイドラインは学生にも提示し、実習前に実習施設に個人情報保護の誓約書を提出している。実習期間中は学生もガイドラインに則り、患者の個人情報取り扱いに留意している。また、卒業時にも個人情報保護に関する誓約書をとっている。個人情報が記載された資料の管理は、梱包して処分されており、情報管理に努めている。職員の入職と退職の際に、職務中に知り得た情報の保護について、誓約書を

交わしている。

課題及び今後の改善方策

継続して、法令、設置基準に基づいた報告・届出を行うとともに、法令等の遵守に努める。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を実施しており、適正な運営はできている。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めており、学生、教員のインシデントは発生していない。

項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

総括

学校施設は関連施設の研修や会議に使用できるようにしているが、今年度は COVID-19 の感染拡大の影響で使用はしていない。図書室は卒業生も使用できるようにしている。ボランティアに関しては、働きながらの学生であるため、参加は難しいが、ボランティアの募集がある際は学生に呼び掛けを行っている。

課題及び今後の改善方策

学生のボランティア活動の把握と、ボランティアの募集があれば、積極的に奨励する。

学校関係者評価委員会からの意見

特になし

小項目 Ⅹ-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学校施設は関連施設の研修や会議で使用できるようにしている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 年度初めの個人面談でボランティア活動の状況把握をしている。ボランティアの募集があれば、学生にも伝える。